

災害初期の準備調査

大災害発生直後、消防や自衛隊が来るまでの間に住民自身で重機を使って救助や道路開削をしようと、松阪市飯高町の宮前まちづくり協議会は、全約六百戸に、災害時に重機や発電機の提供を呼び掛け、貸し出し可能な機材について調査している。(大沢悠)

所有者への協力依頼を兼ね、全戸に調査カードを配布。ダンブカーや発電機、チェーンソーなど八種類を

松阪・飯高の住民ら



飯高地区の建設会社で使われている重機。住民協議会が地元の企業や家庭から災害時に貸し出せる重機を募っている。松阪市飯高町の尾鍋組敷地で

自主防災へ機材の提供要請

挙げ、無償で貸し出せる機材を尋ねた。十六日までに回収し、貸し出し可能な所有者と機材をリスト化する。所有者には重機の操縦も依頼する。地元の土木、建設会社にも重機の貸し出しや操縦の協力を求める。

飯高地域は山間地で市街地から遠く、消防や自衛隊が到着するまでに時間がかかると思定される。一方、土木工事業の従事者が多く、個人的に重機を所有、操縦する人も。

提案した中村武司・防災部長(左)は消防団の経験から「大災害時は隣近所で助け合わない」と話す。

市危機管理室によると、共助のための機材貸し出しの調査は聞いたことがないといい、住民の自主的な取り組みに期待している。